

令和6年度 江戸川区立船堀第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○進んで学習する子ども ○思いやりのある子ども ○じょうぶな子ども		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○目標に向かい、子どもも職員も主体的に取り組み、子どもが育つ学校 地域の期待に応え、保護者が通わせてよかったと思える学校 ○確かな学力が身につく、豊かな心が育ち、健康でたくましい児童 ○「子どもが育つ学校」を念頭に置き、自らの職責を果たす教師
前年度までの本校の現状	成果	○江戸川区教育課題実践推進校として2年間研究に取り組み、学力の向上を図ることができた。教員の授業改善を図ること、図ろうとする意識が高まった。	課題	○学力の向上は見たものの、家庭学習の取り組みに大きな差があった。家庭学習・提出物・基本的な生活習慣等、家庭との連携を密にし推進していくことに課題が見られる。 ○子どもの心のたくましさ、持続力・持久力、様々な問題を自分事としてとらえる力の育成に課題が見られる。 ○若手教員・学校の核となる主幹教諭・主任教諭の育成。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○基礎・基本の定着	・週2回の朝10分間のスタンダードの実施 ・放課後学習の充実 ・家庭学習の推進	・江戸川区学力調査で85%達成 ・家庭学習が身についた児童80%	B	B	B	・江戸川区学力調査は7月時点で4年生77%、5年生74%。 ・1月の江戸川区学力調査に向けて苦手分野に取り組んでいく。	B	・定期的な習慣で基礎を学ぶ活動は、大変良い。 ・デジタルドリルの活用もよいと考えます。	B	計算や漢字の読み書きなど、基礎的な学習を習慣化できると良い。	A	良い成果が出ていると感じている。	放課後補習では、より基礎的な分野へ取り組んでいく。
	○主体的で深い学びに向けた授業改善の推進	・校内研究（理科・社会・体育）を核にすべての教員が授業改善に取り組み、具体的な改善を図る。	・改善に取り組んだ教員100% ・授業が楽しい、よくわかるが85%	A	A	A	・全教員が体育・理科・社会、いずれかの分科会に所属し、授業改善に向けて取り組んでいる。	A	・教え込むのではなく、児童自らが主体的に取り組もうとする授業への転換が図られている。	A	それぞれの教科に分かれ、教員が自主的に研究を進めることができた。	A	自分たちで学習の計画を立てていた。低学年も高学年もできていたようだった。	教科を一つに絞り、前年度の研究も踏まえ、より内容を深めていく。
	○読書科の更なる充実	・船二100選を作成しテーマ読書と共に読書の幅を広げる。読書科ノートの活用及び探求的学習の実施。	・読書好きが80% ・江戸川っ子読書科コンクールに全員参加	B	B	B	・船二100選について、ホームページにて公開・紹介している。	B	・船二100選の図書を作成し、読書の幅を広げる活動は大いに評価できる。 ・図書専門の事務員、司書職員を増員しないと、先生だけの業務は厳しいと考えます。	A	100選を作成したことで、児童の読書への興味関心が高くなった。	A	子どもが何を読もうかと悩んだ時に、良いと思う。	100選をはじめ、児童が興味をもった書籍については冊数を増やしていく。
体力の向上	○個の「めあて」を明確にした授業実践	・毎週30分間の全校運動遊びの実施	・体育の授業で達成感をもつことができた85%	B	B	B	・中休みには、全校児童と教員も校庭に出て外遊び・運動に親しむ習慣が身に付いている。	A	・係、委員会活動、補習などをせず、中休みはとにかく外遊びというルールはたいへん素晴らしい。	B	運動に親しむことはできていると感じるが、「めあて」に対する意識はもう少し浸透させていく必要がある。	B	児童が多い中で全員が運動できる工夫をしていただきたい。	学年に関わらず、児童が一時間の学習の目的やめあてを明確にもつことができるよう、掲示などの工夫をしていく。
	○学年・個に応じた体力向上の縦の取り組みの充実	・学期に1回のなわ跳び週間の設定	・進んで体を動かしている95%	B	B	B	・1学期に短なわ・長なわを使った運動あそびの取り組み実施。なわとび出前授業を7月に実施。	B	・（児童会も含めての）全校的ななわ跳びの取り組みはたいへん良いことだと思います。	A	異学年で見合う機会があり、よい刺激になっていた。	A	なわとびの出前授業もあったと聞きました。子ども達がよく興味をもつような取り組みが良いですね。	なわ跳びでは回数だけではなく、異学年同士でも楽しめるような内容を計画する。
	○健康教育・食育の推進	・毎日19日を「食育の日」とし、食と健康について指導する。	・食や自分の健康について関心が高まった90%	A	A	A	・ビデオや読み聞かせなどで、食や健康についての指導を行っている。	A	・学校で、ほぼ毎日ある給食は子どもの興味と興味、保護者と子どもの話と良い共通にできる良い内容だと思います。給食日より、給食レシピなども活用して、食への意識の高い子どもが育っていると感じました。	A	おたよりや動画、ホームページなど、様々な方法で指導することができた。	A	色々と工夫がされている。HPにも掲載があり、わかりやすい。	食育の他にも、病気の予防や生活習慣の改善についても盛り込んでいく。
実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育実践	・巡回指導や日本語指導対象児童の理解と連携を図る。	・毎月1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施	B	B	B	・教員間の打ち合わせ、情報交換は実施できている。環境面でユニバーサルデザインを取り入れた取り組みを実施していく。	B	・ユニバーサルデザインは、誰もがわかりやすいという視点だと思わず、巡回指導、日本語指導などの一部ではなく、総合などで扱う福祉教育、教室内デザインの統一などが取り組み内容にあった方がよいと思います。 ・国籍に関わらず、地域で生活する児童に教育の機会を提供することは公立学校の存在意義そのものだと考えられます。ゾウハツや人材面で困難な点も多いかと思いますが、地道に取り組むをお願いします。	B	環境面に関しては、教室でどのようにしていくのか、教室以外の全体的な取り組みをどのようにしていくかを考える必要がある。	A	やまぶき教室や日本語指導の先生が学校にいるのは、とても良いと思う。日本語指導に関しては、もっと対応できる人数が増えればよいのと思う。	教室や廊下などの環境面に加え、板書でのチョークの色についてなど、児童の日常生活の中でもユニバーサルデザインの考えを取り入れていく。
	○巡回指導・エンカレッジルームの理解と活用	・特別支援教育の理解を深める研修の実施。	・年度初め、年度終りの全学年の保護者会でエンカレッジルームを紹介	B	A	B	・学校公開などで特別支援教室の教室を参観できる時間を設けたり、巡回指導校の保護者会を開催したりして紹介することができた。	B	・特支教育研修で学級経営が変化すると良いですね。一人一人を大切に、その子にあった目標を見いだし、プラス評価ができるようにして自己肯定感を高めていくなどの活動を期待したい。 ・支援を必要としている人が身近にいるという事実を知ることができるだけでも、児童の意識醸成には大事なことだと思います。奇をてらうことなく一歩一歩進めていただければと思います。	A	校内で研修を実施した。より教員間で情報を共有していきたい。	A	学校説明会でもお話があった。これからも続けていただきたい。	特別支援教室だけでなく、それぞれの教室での指導に生かせるような声掛けや児童理解についての研修となるようにする。
	○人権教育、道徳教育の推進	・様々な立場の人と交流する機会を全学年設定する。	・各学期1回以上の実施	A	A	A	・道徳地区公開講座では、保護者・児童との交流の場を設定することができた。様々な立場の人との交流は今後の課題。	A	・道徳の4学年の授業（道徳地区公開講座）は、たいへんよい試みだと思いました。	A	児童間だけでなく、保護者の方にも参加していただいたことで、児童が違う視点で考えることができた。	A	道徳の公開授業では、子供たちと一緒に話す機会があったのが良かった。	異文化や多国籍に関する差別や偏見をなくすように、様々な立場の人や国への理解を深める。
不登校・	○Hyper-QUの実施と活用	・QUテストで児童の実態を把握し、指導の推進を図る	・夏に研修を実施して2学期以降の学級経営に生かす	B	B	B	・研修会を行い、講師の先生からQUの活用法について教員が学ぶ機会を設け、学級指導に生かすことができた。	B	・返却時に記載されてある個に返るコメントは、指導の役に立つのでしょうか？児童の実態には該当していないように感じました。	B	指導にどのように生かしていくのか、より個に応じた指導を考えていく必要がある。	A	子供の実態を把握するためには良いと思います。	QUからL-gateへの切り替えにあたり、児童の見取り方については学校全体として共有する。

いじめ対応の充実	○不登校の増加、いじめの未然防止を図る	・月曜日の夕会で情報を共有し「いじめ・不登校委員会」を活用する。	・学校は楽しいが90%	A	A	A	月曜日の夕会で、毎週全職員間で児童の情報共有を徹底している。	A	・毎週、情報交換する枠を設定することは大切だと思います。子どもを複数目の視点で見ていることで、状況把握がよくなると思います。子どもも関わってくれる大人が担任以外にもできると安心して残存者と思えます。 ・「学校に行けるようになる」ことだけがゴールの選択肢にならないよう留意いただければと思います。	A	学年を問わず、トラブルがあった時には、職員全員で対応することができた。情報共有も、未然防止のために継続していきたい。	A	いじめやトラブルを防ぐためにも、先生方には情報共有をお願いしていきたい。	毎週の報告は今後も継続していく。トラブルがあった時などには、記録をとり、引き継ぐことができるようにしておく。
	○「友達学級」「クラブ・委員会」等、異学年交流の充実	・年間指導計画に沿って活動を実施する。	・他学年とのかかわりが楽しい85%	A	A	A	・クラブ・委員会では5・6年生を中心に児童の自主性を重視した活動に取り組んでいる。	A	・友達学級を1、6年などは日常的にできると本当は良いですが、校舎内配置から難しいですね。 ・読書活動の読み聞かせを上級生がやってはどうでしょうか。	A	全校を対象にした集会ができた。子ども達の意見をより取り入れていくようにしていきたい。	A	クラブ活動の様子などを校庭から見ることもあるが、楽しそうにやっていると良いと思う。	楽しく活動することはできているので、自主的に計画・運営ができるようにしていく。
学校（園）の地域社会に開かれた実現	○学校ホームページの充実	・学校ホームページの更新	・学年のページは行事ごと、月1回は更新する。	B	B	B	・毎月学年だよりをアップしている。後期以降、学年の様子について月1回更新していく。	A	・ホームページ更新は、月の学年だより、学校だよりとリンクしていくと良いと思います。 ・個人情報扱いが難しいので、写真などは個々に持っているタブレットの活用で、限られた保護者への情報提供が良いと思います。	B	公開更新を行うペースが学年によって違うので、学校全体として進めていく。	A	先生方の負担にならないように、学校の様子がわかるようにお知らせいただけたらうれしい。	各学期1回はホームページで学年の活動の様子を紹介できるようにする。
	○学校公開、土曜授業、運動会、展覧会等学校行事への参加、参観	・年間を通して月1回学校に足を運ぶ機会を設定する	・学校の様子をわかる80%	B	B	B	・学校公開6月に1回、9月に1回実施した。運動会も6月に行い、保護者・地域の方に参観していただくことができた。	A	・月1回学校を観るチャンスが設定されているのはたいへん良いことです。 ・幼児小連携として、幼保の職員などにも公開の機会を増やしても良いのではと思います。	B	公開や土曜授業に関しては、保護者の方にグループに入ってもらい、児童と話し合ってもらったことができた。	A	制限なく参観ができるようになり、子供たちの元気な姿が見られるようになったのは良いと思う。	学校公開に限らず、地域の人との関わりをもった学習を取り入れていく。
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教員へのアンケート実施	・児童・教員は学期ごとに、地域・保護者は2学期終わりに実施	・児童・教員は学期ごとに、地域・保護者は2学期終わりに実施	A	A	A	・各取り組み項目についてのご意見をいただくことができています。年度末に一年間を通した評価をしていただく。	A	・これからも連携を進めていきたい。	A	学校評議委員会で、地域の方からの意見を聞くことができた。	A	これからもお互いの意見を交換できる場があるとよいと思う。
教育の特色ある展開	○授業改善に向けたブロック研究	・教員が体育・理科・社会の3ブロックに分かれ授業改善を進める	・夏にミニ発表会の実施、2学期以降に研究授業の実施 ・水曜日は教材研究日	A	A	A	・各分科会において、教員が自主的に研修・話し合いを行い、授業改善に向けて意欲的に取り組んでいる。	A	・タブレットをiPadにしたのは正解だと考えます。①起動が速い。②写真活用しやすい。③ミラーリングで子供のまとも画面に出せる。④早く課題が終わった子はタイピング練習できる。⑤YouTubeは視聴。 ・教員個人のノウハウに児童の教育の機会が左右されないという点で重要だと思います。成果指標の設定が難しいと思いますが、チャレンジを続けていただければと思います。	A	教員が3つの分科会に分かれて研究することにより、広い視野で研究を考えることができた。各分科会で自主的に進めることができた。	A	先生方がよく教材研究していると思います。	前々年度に研究した経験も踏まえ、国語科で研究を進めていく。
	○働き方改革の推進	・水曜日を4時間授業に設定し、定時退勤日とする。	・水曜日の退勤時刻が17時30分以前90%	B	B	B	・9月時点で水曜日の退勤時刻が17時30分以前の教員は60%だった。リフレッシュデーの週に呼びかけていく。	A	・月1回の定時退勤設定は良い。夜遅くに校舎の照明がついていないことが増えている。 ・行事の精選を進めてほしい。 ・地域人材の活用を進めてほしい。違う人から褒められることも成長につながると思う。 ・メリハリをつけることは大事ですが、定時退勤日以外に延々と仕事を、ということにならないようにしていただければと思います。	B	黒板への掲示などで、リフレッシュデーの周知はしていたものの、徹底はされていなかった。	B	仕事をもっと減らす工夫が必要だと思います。AIや自動化など。できるものがあれば活用できれば、と思う。	スクールサポートスタッフの活用を継続していく。超過勤務時間が45時間を超えている職員には、個別に声をかける。